

令和元年度 上田市立 丸子北小学校 自己評価シート

学校教育目標	めざす子どもの姿(中期的目標)
仲良く助け合う子 進んで学び、 自分の考えが言える子 最後までやり抜く子	○しっかり考え、自分から動ける子ども ○力を合わせて粘り強く追究する子ども ○自分やまわりの人を大切に作る子ども
	今年度の重点目標
	1 学力向上と授業改善 2 清掃「心みがき清掃(自問清掃)」 3 居心地のよい学級づくり

総合評価					
○本年度から、全校で「心みがき清掃」に挑戦し、振り返りの時間を日課に位置付けたことで、自己を見つめながら主体的に取り組む姿が見られるようになってきました。自主性も伸びてきていると感じます。今後も、子どもたちの学びの姿を丁寧に見取り、認め、励ましていきたいと考えます。 ○「授業のユニバーサルデザイン化」や「個別の指導計画研修」「Q-U研修と検査の活用」などを通して、見直しをもって主体的に活動に取り組む児童の姿が多く見られるようになってきました。引き続き、個に寄り添いながら、全校で大切に取組んでいきたいと考えます。 ○全校で「居心地のよい学級づくり」に取り組んできたことで、お互いのよさを認め合い、支え合おうとする学級の雰囲気が高まってきています。今後も、子どもたちを真ん中に、保護者や地域と連携しながら、子どもたちのよさをさらに伸ばしていけるよう、努めていきます。					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
「教師主導型からの脱却」をめざし、「学び合いの学習」や「Q-U」等の校内研修を実施したり、一人一公開をしたりしながら、全校で授業改善に取り組んできました。		○			今後も、児童の実態に合った課題を設定したり、ペアやグループ活動を取り入れたりしながら、振り返りを丁寧に言い、基礎・基本の力を確実に身に付けると共に、主体的で対話的な学びを実現していきます。
日課に「振り返りの時間」を位置付け、毎日自己を振り返ることで、自己と向き合う姿が多く見られるようになってきています。個人差はありますが、学校全体の意識がとて高まってきています。	○				さらに、全校で一丸となって取り組んでいけるよう、個々の取り組みや振り返りの良さを全体に広めながら、全校の意識を高めていきたいと考えます。
「学校がとて楽しい」と答えた児童が4%増加しました。「Q-U研修」等、「学級づくり」の取り組みの成果が少しずつ表れてきていると思われます。		○			今後も、「Q-U研修」や「特別支援教育研修」などを行いながら「児童理解」を深め、お互いを認め合える学級づくりに努めていきたいと考えます。

領域	対象	評価項目	評価の観点
学校教育	学習指導	基礎的な学力の定着	学力の向上をめざし、子どもたちが「わかった」「楽しい」を実感する授業を実施してきたか 家庭学習の習慣をつけるために、「15分×学年」を目安に、家庭と協力しながら発達段階に応じた課題の工夫をしているか
		より良い人間関係づくり	子どもたちが楽しい学校生活を送れるように、一人ひとりが存在感をもち、学び合える雰囲気の学級づくりを行っているか 子どもたちが、安心して生活できるように、学級の人間関係に敏感になり児童の心に寄り添った支援をしてきたか
学校運営	地域との連携	学校からの情報発信	学校は、日頃の学校教育の理解や信頼を得るために、「学校便り・学年便り・ホームページ」等で、学校の様子を伝えているか
		安全安心対策	学校は、毎日の下校指導や地域の「安全見守り隊」と連携して、事故防止や安全指導を進めているか
	研修	授業改善と児童理解	教師は、学習指導や生徒指導等で研修したことを、日常の授業に生かしているか
		職員の綱紀粛正	「非違行為防止」に努めているか
支相談	子どもや保護者への教育相談	保護者や子どもからの相談に対して、関係職員や関連機関とも連携しながら、適切な対応をしているか	

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
授業改善に向けて「丸北小スタイル」「北小っ子ルール」の定着や、「教師主導型の授業からの脱却」を目指し、取り組んできました。「勉強があまりわからない」と答えた8%の児童への対応が課題です。		○			児童一人ひとりの実態を丁寧に把握し、個に応じた支援や指導を行っていきます。また、「一人一公開」を始め、お互いの授業を見合うなどして日頃の授業を見返したり、研修の機会を設けたりして授業改善に努め、教員の資質向上を図っていきます。
「宿題を毎日きちんとしている」と回答した児童が、13%増加しました。「つむぐ」の活用と、保護者のサポートにより、家庭学習の習慣や質が向上してきています。自主学習に取り組む児童も増えました。	○				今後も、各学級・学年で児童の実態を丁寧に把握し、課題に合った内容の宿題を出したり、「つむぐの活用」について、保護者の声も聞きながら、全職員で共通意識をもち、積極的に活用したりしていきます。
お互いのよさを認め合える活動を大切に位置付けて取り組んできました。「学校がとて楽しい」と答えた児童が、昨年度より4%増加しました。	○				特に、「学校があまり楽しくない」と回答した3%(昨年度より1%減)の児童に心を寄せ、一人ひとりに居場所があり、楽しい学校生活を送れるよう、家庭と連携しながら丁寧に支援していきます。
「褒める」「受け止める」を大切にしながら、日頃の声掛けや学習支援を行うなど、よりよい人間関係づくりができるよう心掛けてきました。		○			子どもたちの声に耳を傾け、日々の児童理解を丁寧に言い、「北小っ子タイム」や「Q-U」等も活用しながら、子どもたち一人ひとりに寄り添った支援が行えるよう、さらに努力します。
「学年便り」や「学校便り」、「学校HP」など、定期的に発行・更新するよう心掛け、積極的に情報を発信することができました。保護者のA評価が5%増加しました。	○				「お便りやホームページで、学校の様子がよく分かるので、いつも楽しみに見えています。」等、評価していただきました。今後も、子どもたちの頑張っている様子を、お便りや学校HPなどを使って積極的に家庭や地域へ発信していきたいと考えます。
児童のA+Bの合計が99%を占めると共に、保護者のA評価も、一昨年度14%増加するなど、日々の安全指導が評価されてきていると考えます。	○				家庭や地域との連携を密にしながら、日々の安全指導や事故防止に努めていきます。また、不審者情報など、安全にかかわる内容については、今後も迅速に対応するよう努めます。
応用教育研究所の鈴木先生や、麻布教育研究所長の村瀬先生を招聘して、「Q-U」や「学び合い」の校内研修を実施し、学級経営や授業に活かすよう努めてきました。		○			今後も、教師一人ひとりの力がさらに向上するよう、校内研修を充実させたり、各種研修会へ積極的に参加したりしていきます。そして、日々の児童理解に加え、客観的結果や資料等も活用しながら児童理解を深め、学級経営や授業に活かしていきます。
職員評価の達成度が91%を占めるなど、職員全体の意識が高まりました。	○				職員の同僚生や関係性を高めながら、非違行為防止に向けて、引き続き全職員で取り組んでいきます。
児童や保護者の話を丁寧に聴いたり、定期的に懇談や支援会議を開いたりするよう心掛けてきました。		○			今後も、子どもたちや保護者の声にしっかりと耳を傾け、誠心誠意対応していきます。

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった